

とやまファン  
倶楽部

No.26

2012



CONTENTS

リレーエッセイ 25/須藤 晃	2P
第17回とやまファン倶楽部会員交流会	3P
とやま賞	4P
「夢の卵」育成事業	5P
会員交流広場	6P
富山県からのお知らせ	7P

ふるさとの空

須藤 晃さん



プロフィール

須藤 晃(すどう あきら)  
音楽プロデューサー・作家  
1952年8月6日 富山県生まれ  
1977年東京大学英米文学科卒業後、  
CBSソニー(現SME)入社  
1996年より(株)カルトファクトリー主宰  
尾崎豊、浜田省吾、村下孝蔵、玉置浩二、  
トータス松本、馬場俊英らと音楽制作の  
パートナーとして数々の名曲を発表する傍  
ら作家としても活動。小説、エッセイなど10  
作品以上を発表。言葉(歌詞)にこだわ  
ったプロデューススタイルでメッセージ性の強  
い作品を生み出し、日本のロックシーンに  
与えた影響は大きい。近年は音楽を中心  
とした舞台や映画のプロデュースも手掛  
けている。  
2009年より毎夏、富山の子ども達に本物  
のアート、本物の音楽をプレゼンしたい、と  
いう主旨のもと「TOYAMA CITY POP  
WAVE」というイベントをプロデュースして  
いる。  
2011年3月に公開された映画「はしのふ  
るまち」のプロデュースを担当。  
2012年には富山ふるさとの歌「ふるさとの  
空」の制作プロデュースと補作詞を担当。

木や石やガラスやコンクリートや鉄などを組み合わせて作ったものを「家」とは呼ぶが「家庭」とは呼ばない。人が住んで初めて「家庭」が生まれる。そこで人は生活する。道と山と河と森と家が並んでいる町を「ふるさと」とは呼ぶわけではなく、その水と空気で育ち人とのふれあいや想い出や愛に満ちた場所を「ふるさと」と呼ぶ。人はそこで生まれ生きる。年を重ねて、ふとした時に当たり前のようにならぬ。東京で暮らしてもう四十年以上が過ぎたが、振り返れば途方もない大都会での時間が根雪のように溶けずに僕の心に積もり、それでも所々に真黒な土がのぞいている。大学に入るための準備で何度か往復したあと最終的に僕は北陸本線小杉駅から各駅停車で東京に出た。バカげた行動だったが、もうこの町で一度と暮らすことはないかもしれないと思ったのだ。石川啄木に憧れていた田舎者は、啄木が函館や東京へ旅立つ気分を味わいたかったのか、郷里の町の駅

まで歩いていき、早朝両親に見送られてひとり旅立った。自分を育てた田園風景を目に焼き付けながら歩み東京に近づこうとした。雲の色を引き延ばしたような灰色の空はいつしか希望の街東京のビルのすきまから見える空へと繋がっていた。  
予想した通り僕は大学を出て就職し結婚し東京で仕事を心得、音楽プロデューサーとして歌作りの仕事をやるようになる。シンガーソングライターと呼ばれる人たちと作品作りを始める。歌の原風景のようなものがどれもこれも僕にとっては郷里の光景だということにすくなく気づいた。学校帰りに石を蹴りながら国道沿いや桜並木の川沿いを歩く自分や、放課後に自転車で図書館や本屋に通う自分、雪の中で雪を丸めて投げ合い遊んでいる自分、あてもなくただ数や田んぼ道をひたすら探検し続けた自分、少年雑誌の漫画をわら半紙に一生懸命模写した自分、友達と線路沿いに隣町まで歩いた自分、好きな子の家を遠くから眺めてため息をついてい

た自分、すべてがふるさとの情景の中にいた。歌は郷愁が骨格。作れば作るほど育った場所を描く。ずっと僕はふるさとを追いかけていただけかもしれない。  
三十すぎぐらいまで正月と盆には帰省しようとしたが、だんだんと帰る機会が少なくなり、仕事は徐々に大きな成果を出すもの、まるで石鹸に熱湯をかけているかのように忙しさの中でどんどん何か小さくなっていく不安にとらわれた。それが壮年期なのだろうが、踏みしめる大地がぬかるみ、心のよりどころをなくしたみたいに僕は人生に虚無感を感じる。そんな時期に父が亡くなった。皮肉なこと頻りに帰郷することになった理由は墓参りだった。次男坊の僕が独立した時に父親は家の大きさに不釣り合いなくらいの仏壇を送ってくれた。そして父の他界のあとになぜか自分の周りで急逝する人が続き、毎日仏壇の水を換えて線香をたてる習慣が続き、あの頃から魂の帰巢本能のようなものが年々強くなって

いった気がする。そしてもう誰も住んでいない自分の生家の近くに車を停めて小学校までの道を歩いてみたり、天狗が住んでいると信じて疑わなかった寺の雑木林をくぐってみたり、この水と空気で体も心もできていくんだということを実感したり。そんな僕に県民の歌を作るといふプロジェクトのアドバイザーの仕事が舞い込んだのだ。公募で集まった詩の中から選ばれた優秀作品をもとに補作をするということになった。目を閉じて心の中に浮かぶ少年時代の風景と、耳を澄ませて響いてくる暮らしの音とが蘇るよう素直に書くように努めた。「ふるさとの空」というタイトルにはこだわった。町は少しずつ変わり、人も少しずつ去来し、空だけが永遠を願うように変わらなすべてを見て。ふるさとの大きな空を見渡すと自分の人生の象徴のようにそびえる日本アルプスの勇姿。これが我がふるさとなのだ。あらためて感じ、いつの日にかここでまた暮らすことを夢に見ている。

TOYAMA  
FAN CLUB

第17回  
とやまファン倶楽部  
会員交流会

開会挨拶



石井知事(財団理事長)

開会挨拶



川田代表世話人

挨拶



宮腰衆議院議員

乾杯



村井衆議院議員

お礼の言葉



山辺県議会議長



「ふるさとの空」紹介



新入会員の皆様紹介



いきいき富山館からのお知らせ

会員と富山県及び会員相互の情報交流の場である「とやまファン倶楽部会員交流会」が7月12日(木)にホテルフロラシオン青山(東京)で約170名の会員の皆様の参加のもと盛大に開催されました。会場内では、「ふるさとの空」(富山県ふるさとの歌)と新たに会員となられた方々を紹介したほか、「夏マグル」や「シロエビ」をはじめ富山の新鮮な食材を使った料理や地酒を用意し、会員の皆様に富山の味を堪能していただきながら、示唆に富んだご発言・ご提案を多くいただきました。

「夢の卵」  
育成事業

子どもたちにいろいろな可能性を秘めた夢を数多く持ってもらう、自分の将来について考えてもらうため、将来の夢を書いた作文を募集し、優秀者を各分野の第一人者のもとに派遣する事業です。

今年度は1,375作品の応募があり、その中から選ばれた4名の子どもたちに、夏休み期間中、夢に一步近づいてもらうために、短期入門してもらいました。

小学生の部

射水市立小杉小学校6年  
荒浜 めぐみさん

入門  
内容

「富山をよく知るスペシャル気象予報士になりたい」という夢を抱いて気象庁・東京管区気象台・富山地方気象台、富山市科学博物館に短期入門しました。



富山市立堀川南小学校6年  
杉田 柁文さん

入門  
内容

「山を楽しむ登山者の安全を守る山岳救助隊員になりたい」という夢を抱いて富山県警察本部生活安全部山岳警備隊・警察航空隊に短期入門しました。



中学生の部

小矢部市立石動中学校1年  
西 航大さん

入門  
内容

「全ての生物の命のために役立つ生物学者になりたい」という夢を抱いて濱口哲さん、酒泉満さん(新潟大学理学部自然環境科学科)のもとに短期入門しました。



富山市立北部中学校1年  
辰見 京香さん

入門  
内容

「日韓のつながりを深める韓国語通訳になりたい」という夢を抱いて浜之上幸さん(神田外語大学外国語学部)に短期入門しました。



第29回の受賞者

とやま賞

富山大学大学院理工学研究部(工学)  
助教  
堀野 良和氏



学術研究部門(有機合成化学)

富山県立大学工学部生物工学科  
講師  
鎌倉 昌樹氏



学術研究部門(発生生物学)

富山大学大学院医学薬学研究部(医学)  
客員准教授  
長井 良憲氏



学術研究部門(免疫学)



総合警備保障株式会社  
田知本 愛氏



スポーツ部門(柔道)

富山県オヘア協会  
参与  
小林 大祐氏



文化・芸術部門(声楽)

とやま賞とは

「とやま賞」は、富山県の置県百年を記念し、富山県の将来を担う有為な人材の育成に資する目的をもって昭和59年に創設され、今回で29回目を迎えました。

受賞対象者は、富山県出身者又は富山県内在住者とし、学術研究、科学技術、文化・芸術及びスポーツの分野において顕著な業績を挙げ、かつ、将来の活躍が期待される個人又は団体を対象としており、県内外で活躍されている方を表彰し、その活動を奨励しております。

今年度の贈呈式及び記念講演会は、5月24日(木)に富山国際会議場メインホールで行われ、学術研究部門で3名、文化・芸術部門で1名、スポーツ部門で1名の、計5名の方々が受賞されました。なお、スポーツ部門で受賞された田知本氏からビデオメッセージが寄せられました。

第29回 贈呈式及び記念講演会

贈呈式

- ◆あいさつ/理事長 石井 隆一
- ◆選考経過報告/選考委員長 金岡 祐一
- ◆「とやま賞」贈呈
- ◆祝辞/富山県議会議長 山辺 美嗣
- ◆各受賞者の言葉

記念講演会

- ◆講師 福岡 伸一氏  
(青山学院大学 教授)
- ◆演題 「生命をとらえなおす  
-動的平衡とは何か-」



## 富山県ふるさとの歌「ふるさとの空」について

ふるさと富山をテーマとした歌「ふるさとの空」が完成しました。

歌詞は、公募の作品に、富山県(射水市)出身で音楽プロデューサーの須藤晃さんが補作。作曲は、「となりのトトロ」など、宮崎駿監督作品の映画音楽を手がけた久石譲さん。富山県民や県出身のみなさんに、ふるさと富山を思いながら永く歌い継いでいただきたいと願っています。

- 一 耳を澄ませたら 川の清き音  
かたかごの花が 朝の里を飾る  
春には 春の歌 千本桜の町  
ああ 光のなか  
そこにふるさどがある
- 二 茜色の夕暮れ 立山の姿  
風に舞うおわら 歌い踊り願う  
夏には 夏の歌 七色の花火たぎ  
ああ 青き海よ  
そこにふるさどがある
- 三 黄金色の稲穂 星が降りそいでる  
五箇山こきりこが  
デレレコデン聞こえてきて  
雪降る海原 心のたき火燃え  
秋には 秋の歌声  
冬には 冬の歌が
- 四 はるか道の彼方 夢を描いてた  
あの頃の笑顔 忘れられない日々  
我には 我の歌  
あたたかさ高志(越)の国  
ああ また帰るよ  
いつかふるさとの空

### ふるさとの空

原詞: 布村勝志  
補作詞: 須藤 晃  
作曲: 久石 譲

Moderato (♩=81)

Poco Più mosso (♩=83)

a Tempo (♩=82)

ホームページから曲を聴くことができます <http://www.doyukai.org/furusato/>  
(問い合わせ先) 富山県知事政策局 TEL:076(444)4493

## あなたの応援で富山県を元気に! — 元気とやま応援寄附金 —

「元気とやま応援寄附金(ふるさと納税)」は、富山県に寄附をされると、所得税や住民税が軽減される制度です。

皆さんからいただいた寄附は、「元気とやまの創造」のために大切に活用させていただきます。

ふるさと富山県の人づくり、地域づくりを応援したいという皆さんの思いをカタチにしてみませんか。

### ◇所得税・住民税の軽減例

給与収入700万円で4人家族(夫婦・子ども2人)の方が、3万円寄附されると、所得税と住民税が28,000円軽減され、実質的な負担は2,000円となります。

### (問い合わせ先)

富山県税務課 元気とやま応援寄附金担当  
TEL:076-444-3178

富山県HP <http://www.pref.toyama.jp/>  
「元気とやま応援寄附金」をクリックしてください

## 会員交流広場

～皆様からのメッセージの一部を紹介～

今年度の会員交流会(7月12日(木)開催)のご案内にあわせて皆様からいただきましたメッセージを、当財団のホームページ(<http://www.t-hito.or.jp>)に掲載させていただいております。「富山県への助言」の一部をご紹介します。



多くの会員の皆様で賑わった会員交流会

食べ物、水、風景等、富山の良さをもっともっと全国に発信して下さい。

月一回、富山の観光(風景、物産)のキレイなチラシ(余り経費がかからぬ)を発行してもらえれば「ふるさと使節」として友人知人に配布したい。名前だけの「使節」では無意味、小さくても行動が大切と思う。

世界中の人々から注目されるような話題をもっと増やしたい。英語、スペイン語、中国語、フランス語、ロシア語、アラビア語等での発信。

山、海、平野に恵まれた地形を生かし県民の活力を育成することをいつも念頭に行政をすること。

科学技術は資源小国日本にとって最大の資源です。県内の若者の科学に対する好奇心の高揚を図ることが望めます。多くの自治体が科学館の運営に熱心に取り組んでいます。一層の積極的対応を望みます。

教育が全ての基礎要件です。富山は教育県日本一ですし、住みやすさも日本一、これを大いにアピールすれば良いと思います。

環境教育や自然保護、あるいは外から見た富山県の素晴らしさをアピールすること。

リタイヤー組の第2の人生を再び故郷で暮らせる可なる施策。

政府で複数大学の持株会社型の法人、「アンブレラ方式」の導入が検討される模様ですが、県立富山薬科大学を設立し、国立富山大学医科薬科との連携で伝統的薬業産業の振興と学生の地元定着策は如何でしょうか。(就職で県外流出を止める方策)

富山県は“やさしく”“しんぼうづよく”“進取の力”に富んだ立派な県民と日本を代表する風土をもった県である。古くから世界に進出する業やYKKのネットワークを育ててきた。現代のインターネット宇宙化の時代にふさわしいこのネットワークの母都市として本籍地人行政を強化して世界で活躍する県民の母港機能を大切にしてほしい。

富山のブランドを高めるため、文化、産業、技術、人材開発に協力したい。とくにこれからマーケットインのイノベーションが大切。

いいものがたくさんある。まだまだ広報・宣伝すればイメージアップ・観光客の増加につながると思う。

観光施策について、近年は空路、海路も大分整備されて、外国人観光客も増えつつあるようですが、国内の若年層をターゲットに絞り込んだもの(修学旅行を含む)の開発も望まれる。

東海、飛騨、北陸3地区をひつくるめた観光、たとえば“昇龍道”のさらなるPRなど。

郷里自慢を一つでも二つでも増えるといいな。すばらしい富山県にエールを送ります。

住みやすいところ、住んでみたいところを独自に開発、PRできたらと思います。

北陸新幹線開通後には、富山県のみでなく、例えば東北三大祭りのように北陸三県で協力し、同時期に北陸三大祭りを開催されると東京方面から多くの見物人が集まると思う。

都会の子供たちを対象に「ふるさとづくり」受け入れ企画を。

新幹線開業富山駅構内に富山の物産展示コーナー(立派な)を設置。

全県の土地利用計画を定め、コンパクトな住居地域、大きく広がる農村地域、そして厳正自然地域を区分し、日本のスイスに。

# TOYAMA FAN CLUB



## 問合せ先

### ■事務局

公益財団法人 富山県ひとづくり財団

〒930-0018 富山県富山市千歳町1-5-1 富山県教育記念館2階

TEL076-444-2000/FAX076-444-2001

E-mail:toyama@t-hito.or.jp <http://www.t-hito.or.jp>

### ■連絡所

富山県東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-3 都道府県会館13階

TEL03-5212-9030/FAX03-5212-9029

富山県大阪事務所

〒550-0004 大阪府大阪市西区靱本町1-9-15 近畿富山会館3階

TEL06-6445-2811/FAX06-6445-2611

富山県名古屋事務所

〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄4-1-1 中日ビル4階

TEL052-261-4237/FAX052-263-7308